

## 探究型学習に真正面から取り組もう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：高等学校の学習指導要領が大幅に改訂され、「探究型学習」がすべての高校で、ほぼ毎週行われているようですね。

A：日本中の高校では、2年生を中心に、毎週1回、「探究型学習」の時間があります。生徒自身の興味関心に応じて、数名ずつの少人数グループに分けられます。各々のグループごとに、「課題を発見」「原因の推定」「ではどうしたらよいか」を調査研究。学年末には、研究成果の発表を目指す。これが「探究型学習」の時間です。

Q：どのようなテーマがあるのですか。

A：(1) 例えば、「SDGs」の17項目を身近な課題に落とし込み、調査研究の対象にテーマを考えるグループが多いようです。ですから、日本中の高校生は、SDGsについて、大人より、はるかによく勉強しています。



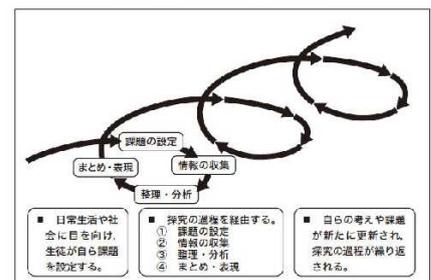
- (2) 高校によっては、地域の課題を自分たちの力で発見し、どうしたらよいかを、毎週1回、グループ単位で話し合い、「論点整理」。では、実際どうなっているかを、街の現場に行き、フィールド調査。その原因を探究。対策を考えて、実行するグループもたくさんあります。
- (3) 自治体の組長（市長、町長、村長、区長）や、地方議会議員、役所、商工会議所・商工会、商店街の代表、青年会議所など、街の担い手の皆様にインタビュー。では、どうしたらよいかを、高校生の立場で考え、政策提言書を取りまとめる高校もあります。皆様の賛同を得て、実行に移される場合は、「言い出しっぺ」として、ボランティア活動する高校生もいます。

Q：すごいですね。高校の先生方は、どのような指導をするのですか。

A：(1) 「探究型学習」では、あくまでも、高校生一人ひとりの興味関心、自ら考える力、自ら行動する力を大切にしているようです。

- (2) テーマの設定やグループ分け、グループ活動の基本、調査・研究の具体的な手法、論点整理の方法、研究発表の手順、アドバイザーの紹介、訪問先の紹介や調整など、「伴走型」の指導に徹している先生が多いようです。

探究における生徒の学習の姿



○私自身は、栃木県立宇都宮中央高校第2学年の「探究型学習」のアドバイザーの一人として、栃木県経済同友会からの派遣講師の一人として、7月から参加させていただいております。

ます。

(3) 毎月 1 回は、進捗状況の報告を聞き、アドバイス。中間報告、最終報告の予行練習などを行い、励まし、お導きなされる先生も多いようです。

Q：このような「探究型学習」で身に着く能力は何ですか。

A：(1) 自ら考える力、批判的思考能力、自分の意見を表現する能力、チームプレイやコミュニケーションの能力などが、確実に身に着きます。

(2) 問題発見能力、問題調査能力、問題解決能力も、確実に身に着きます。

(3) 更には、現代社会に対する認識、自らの地域についての深い認識、様々な社会の担い手が、懸命に持続可能な社会の形成に尽力している姿を、認識することができます。

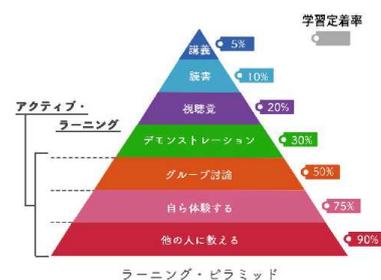
○素晴らしい社会勉強です。高校の学習指導要領の改訂で、同じく必修化された、主権者教育を目指す「公共」の授業とコラボすると、高い学習効果が生まれます。

Q：「探究型学習」は、受験や高校卒業後、大学・専門学校・大学院、社会に出て働き、社会的活動をする際に役立ちますか。

A：(1) 入試に必要な「志望理由書」「論文試験」「面接試験」「集団討論」は、「探究型学習」そのものです。大いに役立ちます。

(2) 大学の授業の主流は「アクティブ・ラーニング」です。課題を自らの手で発見し、課題解決に向けて議論を深め、レポートをまとめるものですから、高校での「探究型学習」は、その基本的理解を深めるものです。

(3) 現代は、課題山積社会です。これからの仕事や社会的活動で一番大切なのは、課題を発見し、それを解決することに尽きます。



Q：学習塾・予備校・私立学校の幹部の先生方に、ご提案したいことがありますか。

A：(1) 自分で考える力、批判的思考能力、読解力を意識的に、又、戦略的に徹底的に鍛えていただきたく存じます。

(2) そのために、「辞書・新聞・読書・学校図書館・公共図書館」に慣れ親しみ、徹底的に活用する「学習習慣」をお育ていただきたく希望します。

○とりわけ、紙の「新聞」を、一面からなめるように、毎日、読み続けることは最重要です。

(3) 「辞書・新聞・読書」に親しまない限り、「探究型学習」の基礎である「読解力」「論理的思考能力」「創造性」「表現力」は身に着きません。この調査研究の中心地は、「学校図書館」「公共図書館」です。大学生になって、アクティブ・ラーニングの中心地である「大学図書館」を使いこなすには、小・中・高校生の時代に「学校図書館」「公共図書館」に慣れ親しんでおく必要があります。

○ですから、「学校図書館」「公共図書館」のアップデートと整備も極めて大事です。



Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、僭越とは存じますが、先生方がお読みになれば、必ずお役に立つと思われる本を、ご紹介させていただきます。



(1) 1冊目は、スティーブン・ピンカー著「21世紀の啓蒙—理性、科学、ヒューマニズム、進歩(上・下)」草思社文庫、草思社2023年2月8日刊です。

第16章「知識を得て人間は賢くなっていく」をはじめ、1章から23章まで、教育に携わる先生方にとり、夢と希望に満ち溢れた快著です。こんなにワクワクする、前向き、ポジティブ・シンキングな本は、久しぶりです。原書は、Steven Pinker 著「Enlightenment Now」ペンギンブックス刊、標準的な英語です。元気な先生は、初めから原書にご挑戦を！

(2) 2冊目は、樋口裕一著「18歳から100歳までの日本の未来を考える17のキーワード」学研プラス、2022年10月4日刊です。「探究型学習」の最高の参考書と確信します。同時に、ヘイミッシュ・マクレイ著「2050年の世界—見えない未来の考え方」日本経済新聞出版、2023年7月19日刊も、おすすめします。「探究型学習」の最高の参考書だからです。

(3) 3冊目は、遠藤誉著「習近平が狙う『米一極から多極化へ』台湾有事を創り出すのはCIAだ！」ビジネス社、2023年7月12日刊です。台湾有事に対して、「中国は台湾平和統一しか目指していない」との見解を示す異色の書。遠藤先生のご著者は、すべて、示唆に富みます。

(4) 4冊目は、金谷治訳注「荀子(上・下)」岩波文庫、岩波書店1962年4月16日刊です。論語とともに学ぶべきは、孟子と荀子です。孟子と同じように、現代語訳だけでも、行きつもどりつ、じっくり読むと、多くのことを学ぶことができます。内山俊彦著「荀子」講談社学術文庫、講談社、1999年9月10日刊は、荀子理解の最高の参考書です。

○先ほどの遠藤誉先生の御著書によれば、苦汁をなめ、中国トップの座に着いた習近平主席の愛読書が、この「荀子」だそうです。中国トップが目指すものを知る上でも、「荀子」は必読と考えます。

(5) 5冊目は、菅原完著「太平洋戦争捕虜第一号・海軍少尉酒巻和男真珠湾からの帰還」光人社NF文庫、光人社2023年7月25日刊です。真珠湾攻撃の際、特殊潜航艇で攻撃、未帰還捕虜となった海軍少尉酒巻和男氏の一生。江田島の海軍兵学校での生活や、米国での捕虜生活は実感をもって迫ってきます。終戦の年、江田島の海軍兵学校に入学し、現在、94歳の菅原氏の渾身の一作です。ぜひお読みください。(8月9日、長崎原爆投下記念日、記す)

